

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 4/1~6)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。※下段( )内は検出限界値。

測定地点		4/1~4/6	
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.029 (0.028)
		Cs137	0.110 (0.025)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	不検出 (0.025)
		Cs137	0.088 (0.026)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.025)
		Cs137	0.039 (0.024)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.021)
		Cs137	0.095 (0.019)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.020)
		Cs137	0.031 (0.017)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。初回分の吸引期間は5日間となっています。

測定地点		(ミリベクレル/m <sup>3</sup> ) 4/1~4/6	
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	不検出 (0.027)
		Cs137	0.043 (0.024)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.019)
		Cs137	0.092 (0.018)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.024)
		Cs137	0.062 (0.019)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.025)
		Cs137	0.063 (0.026)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	不検出 (0.022)
		Cs137	0.075 (0.018)

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

### ★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

今回の測定では、全ての地点でセシウム137 (0.031~0.11mBq/m<sup>3</sup>) が観測され、川房公会堂でセシウム134 (0.029mBq/m<sup>3</sup>) も観測されました。この報告を見て、前回までの観測値と大きく違うと気付かれた人がおられると思います。

検出地点が増加したのは、サンプリング期間がこれまでの1日から1週間に延長し、かつ、測定時間を3時間に延長したことで、測定感度が約10倍にあがったことに起因しています。放射線量は、1週間の値を基に計算した平均値ですから下がっていますが、これまでほとんど観測されていなかったセシウム134も観測されました。しかし、いずれの値も健康に影響を与える濃度に遠く及びません。